



2020年3月30日

各 位

会 社 名 オンコリスバイオフーマ株式会社

代 表 者 名 代表取締役社長 浦田 泰生

(コード番号:4588)

問 合 せ 先 取締役管理担当 吉村 圭司

(TEL.03-5472-1578)

次世代テロメライシンOBP-702の開発に向けた 助成金採択に関するお知らせ

この度、当社の腫瘍溶解ウイルスの開発パートナーである岡山大学が、次世代テロメライシン OBP-702 の開発に関して、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の助成を受けることが決定しましたので、お知らせします。

当社が開発を進めています OBP-702 は、がんのウイルス療法「テロメライシン（OBP-301）」に、がん抑制遺伝子 p53 を搭載した次世代テロメライシンです。がん抑制遺伝子 p53 による「遺伝子治療」とテロメライシン（OBP-301）の「腫瘍溶解機能」を組み合わせた2つの抗腫瘍効果を持つウイルスとして開発を進めています。

がん患者様全体の内、30%～40%で p53 遺伝子の変異または欠損が認められており、特に難治がんである膵臓がんなどでは高率に変異が認められています。p53 遺伝子変異・欠損が認められるがん患者様に対して、OBP-702 を投与することで、テロメライシン（OBP-301）の特徴であるテロメラーゼ陽性のがん細胞において特異的に増殖して破壊し、同時にがん細胞の中で発現された p53 蛋白質ががん細胞を自然死（アポトーシス）させたり、がんに対する免疫を強くしたりする機能を有しています。

今後、既存の治療法に抵抗を示すがんや、テロメライシン（OBP-301）で効果が得られにくかったがん種等、アンメットメディカルニーズを充実させる治療薬へと開発してゆきます。

当社は引き続き、次世代テロメライシン OBP-702 の研究開発を促進させ、2022 年までに臨床試験開始を目指していきます。

<助成の内容>

事業：令和2年度「革新的がん医療実用化研究事業」

領域：革新的がん治療薬（再生医療等製品）の実用化に向けた非臨床試験

研究開発課題名：「難治がんに対する p53 がん抑制遺伝子搭載武装化アデノウイルス製剤の実用化のための非臨床試験」

所属：岡山大学

代表者：藤原 俊義

研究開発実施予定期間：2021 年度～2023 年度（予定）

なお、本件に関する業績への影響等につきましては、2020 年 2 月 7 日公表の「2019 年 12 月期 決算短信 [日本基準]（非連結）」に記載の通り、現時点では業績に与える未確定な要素が多いことから、2020 年 12 月期の業績予想は適正かつ合理的な数値の算出が困難な状況と考えており、予想の公表をしておりません。

以 上